

入試年度	2026	入試方式	一般	課程	博士後期
研究科	発達教育学	専攻	教育学	領域（分野）	心理学
出題のねらい					
入学者受入れの方針に記されたように、筆記試験では、「教育学や心理学に関する高度な専門的知識あるいは研究手法の有無について精査する」ことを目的とするが、特に外国語の筆記試験では以下の各点について評価を行うことを目的とする。 まず、心理学で最も多く出版されている英語文献を読みこなす基本的な英語の語学力を有しているかどうかを評価する。そのため、この問題では英語論文から抜粋した英文を読み、要領よく要約することを求めている。これにより、ある程度の分量の英文を限られた時間で読み、概要を理解できる能力があるかを評価する。 また、外国語の筆記試験では、英語力だけではなく、研究に必要な日本語の能力、論理的能力を評価することも目的とする。この問題では、要約の仕方を見ることで、これらの能力の有無を評価する。 さらに、心理学的なものの見方、考え方を備えているか、心理学の方法論について一定の理解をしているか、心理学の基本的な概念についての理解が十分であるか、などについても評価する。そのため、比較的専門性の高い研究論文の一部を要約させることで、これらの点について評価することを目指す。					
解答・解答例または採点時の評価ポイント					
①問題文全体を読んでいるか。研究では多くの文献を読みこなす必要があるので、それに対応できるスピードで英文が読めるかどうかを問う。 ②問題文全体の大意が伝わるような詳細さで要約ができているかどうかを問う。骨子の要約が求められているので、重要度の高くない部分の大幅な省略が必要だが、重要な文の欠落や、要約の長さに対して不適切な詳細を含むことは、減点の対象となる。 ③筋の通った文章になっているか、論文などに相応しい日本語が使われているか。語学力と同時に論理的能力、日本語の能力も評価する。問題文の論理的展開を押さえた文章になっているか、論文などの文章に相応しい日本語が使われているか、などについて、評価する。 ④問題文は、ポジティブ心理学への批判に関する専門的な内容のものであるが、受験生の専門領域がこれに近い場合には、テクニカルタームが適切な訳語に訳されているか、要約が専門的な概念や考え方を押さえたものになっているか、などについて評価をおこなう。受験生の専門領域がこれと離れている場合などには、これらについては厳密には問わないが、心理学の概念や方法論を意識して内容を捉えた上での要約や訳語の選択になっているかどうかについては、評価の対象となる。					

2026 年度京都女子大学大学院発達教育学研究科（博士後期課程）

教育学専攻（心理学領域）入学試験解答用紙

【外国語】

【解答例】

Llewellyn van Zyl ら（2024）は、ポジティブ心理学に対する批判を体系的に整理するため、1 万本以上の関連文献を検討し、その中から 32 本を抽出、117 の批判点を分析した。それらを 21 カテゴリーに分類し、最終的に 6 つの包括的テーマへ統合している。

第一は理論的基盤の弱さである。ポジティブ心理学は明確なメタ理論や哲学的基盤に十分支えられておらず、「flourishing」や「well-being」などの概念が曖昧である点、さらに介入の理論的裏づけが不十分である点が指摘されている。第二は測定と方法論の問題であり、実証主義的アプローチへの過度な依存、研究デザインの質のばらつき、構成概念の妥当性や信頼性の課題が挙げられる。第三は疑似科学性および再現性の問題である。心理学全体に共通する再現性危機が本分野にも及び、一部では効果の誇張や確証バイアスが存在すると批判されている。第四は新規性の欠如と学問的孤立である。既存の心理学理論、とりわけ認知行動療法などを応用しているにすぎず、独自の理論的パラダイムが十分に創出されていないとの指摘がある。また、他領域との統合が不十分であることも問題視される。第五は文脈を欠いた新自由主義的イデオロギーとの批判である。研究対象が WEIRD 集団に偏り、自己責任や自己実現を強調する価値観が強いこと、悲嘆など正常な感情反応の病理化、さらに人種差別やジェンダー問題など社会的課題への関心の不足が指摘されている。第六は資本主義的ビジネス化であり、幸福の追求が商品化され、ウェルビーイング産業と結びついている点が問題とされる。

もっとも、これらの批判の多くは分野の発展を促す建設的な問題提起でもある。研究の理論的厳密性を高め、社会的文脈を踏まえた実践を行い、過度な一般化を避ける姿勢が求められている。